

全酪連会報 10

2023 OCT No.697

若手後継者の本音／永田正樹さん

全酪アカデミー卒業生
熊本で就農開始

日本酪農見て歩紀／浜田牧場
(神奈川県平塚市)

酪農トピックス／全酪アカデミー研修生
ラジオで抱負を語る（全酪アカデミー）ほか
酪政連活動報告



LINE公式
アカウント
ができました！
登録をお願いします！



酪農青年女性会議

@642bpcwk



全国酪農協同組合連合会

今回ご紹介する永田牧場は兵庫県神戸市の神出町に位置する牧場です。約80年前から経営を続けています。昨年より、育成牛の放牧を始めました。

神戸市の中でも神出町は最大級の農地があり、その豊かな田園風景から、「神戸らしい眺望景観10選」にも選出されています。

そのため、自給飼料の生産を行うことも出来ます。

永田牧場は現在、搾乳牛40頭、育成牛37頭飼養しており、労働力は今回お話を伺った正樹さんとご両親の3人です。

就農までの経緯

正樹さんは、県内の農業高校、北海道の農業専門学校を卒業後、十勝で2年、カナダのケベック



▲ 永田ファミリー
(2列目左から正樹さん、娘の望結ちゃん、奥様の美保さん、右 さち子さん
1列目左から2番目息子の颯太くん、右 幹彦さん、他、近くに住んでいる甥っ子さんたち)

今回は、兵庫県神戸市 永田牧場の後継者 永田 正樹さんにお話を伺いました。

ク州で2年の実習を経て、約7年前に後継者として永田牧場に就農しました。就農のきっかけは、高校時代に勧誘してもらった乳牛クラブへの入部でした。乳牛クラブで活動する中で、乳牛改良に対する恩師の熱心な指導と共進会に真剣に取り組む酪農家との出会いから、共進会の魅力に気づき、より美しい牛を作り上げたいという想いがどんどん強くなり、就農を決意しましたとのことです。今では日々牛の改良に目を向け、酪農と真摯に向き合っています。

就農してみて感じたことは

「率直に言えば大変の一言に尽きますね。一般企業のように休みがないですし…」と話しつつ、努力を重ねて共進会で自分の牛を高く評価してもらえると日々の大変さは正樹さんにとって大きなやりがいに変わっていったようです。

また、就農前は牧場のお金の流れ、仕組みが分からなかったが、実際に就農して自分が経営を回していく立場になると、必然的にお金についてでも考えられるようになったと正樹さんは仰っていました。自分の思うようなお金の使い方をお金の面で力を入れられるよう使い方を意識しているとの事でした。このような考え方は就農する前と就農後でかなり変わったと思うとのことです。

共進会に対しての想い

「何よりも自分好みの牛を作り上げたい、ただ好きだから参加しているといったところでしょうか？共進会が無かったら牛飼いをしないといっても過言ではありません」と力強く話されました。

また、共進会は、様々な人と出会える場所でもあり、牛についての情報に限らず、世界情勢、県内外の酪農家情報等幅広い情報を一気に共有することが出来ます。共進会で得た情報を活かしながら、日々牛の改良に取り組んでいるとの事でした。その結果として、2023年3月には県内のブラックアンドホワイトショーでグランドチャンピオンを受賞されています。共進会には高校生のような若い子たちも参加しています。正樹さんは、自分の牛を出品する傍らで高校生たちのサポートもしています。多くの若者たちと接する中で、『ただいい牛をつくりたい』一心で向き合う真剣な姿を見て、自分にとって初心に帰ることのできるかけがえのない場になっていると目を輝かしながら話されている正樹さんがとても印象的でした。

将来に向けて

将来に向けての展望を正樹さんにお伺いしました。



若手後継者の

本音

Vol.65

[経営概況]

所 属 兵庫県酪農農業協同組合(吉川稔英代表理事組合長)

家族構成 永田正樹さん(31歳)、幹彦さん(父・68歳)、さち子さん(母・65歳)

飼養頭数 経産牛40頭、育成牛37頭

共進会が 今の自分のルーツ

「現状の規模で、牛の改良にさらに力を入れ、共進会で成績を残せる酪農家を、言ってしまうと10年続けられたらいいと思っています。先にお話した自分好みの牛の最終目標は長命連産が可能な牛ですが、あくまでも、この牧場として共進会で活躍するショーカウ集団を完成させたいと考えています。その先はアイス販売といった6次産業化にも興味がありますが…。労働時間を短縮できる働き方の確立ですね。昨年からは育成牛の放牧を始めました。将来的には放牧主体の酪農経営にしていきたいと考えています。そして、長命連産の牛群作り、共進会に強い酪農家を目指すよう日々酪農と向き合いたい！」と力強い言葉を頂きました。

(M・K)



全国の若手後継者の皆さんへの一言！



厳しい情勢が続いていますが、そんな時こそ地域、農家同士のつながりを大切にするのがなにより酪農経営を続けていく秘訣だと思います。

つながりを築くために共進会等のイベントに参加する機会がもし身近にあれば試しに足を運んでみることも大事なことでないでしょうか。



全酪アカデミー卒業生

熊本で就農開始

本会と、(一社)全国酪農協会が、酪農就農や牧場従事等を志す担い手を育成し就農に結び付けることを目的に設立した一般社団法人全酪アカデミーの第1期研修生であった小久保海さん(35歳)は、アカデミーでの研修期間を終え、9月から経営主として熊本県で酪農をスタートしました。

北海道の酪農家で5人きょうだいの末っ子に生まれた小久保さんは、大学を卒業後、全酪連に入会しました。購買担当として日々の推進業務で酪農家さんと接するうちに、自分であればどのように飼育・管理をするかと考えているうちに、『自ら酪農をやりたい!』という思いが膨らみ、令和2年に全酪連が新たに事業を始めた『酪農を支える人材育成事業(全酪アカデミー事業)』の対象者となり研修をスタートさせました。研修の初年度は全酪連若齢預託熊本牧場(哺育・育成牛約500頭)にて哺育・育成の飼養管理を中心に基礎研修を行ない、2年目からは全酪アカデミーの契約農場である(株)宮本牧場(熊本県玉名市)に研修

の場を移し、搾乳や人工授精、その

他農場作業全般の実践研修を行いました。その間、全酪連の技術顧問や担当役職員が講師を務める座学研修を受講し、知識の習得も重ねてきました。

就農候補地は、小久保さんが自ら探し求めたもののほか、全酪アカデミーの賛助会員から事務局のもとに届くものも多数あり、それらの候補地となる農場を全酪アカデミー事務局とともに視察訪問し継承に関する協議を重ねました。最終的には(有)もりもと牧場(熊本県阿蘇市)を就農先と決め、株式譲渡に関する基本合意書を締結し、今年の3月から事業継承を前提として研修を行ないました。

小久保さんが継承した(有)もりもと牧場は、阿蘇山が形成した世界最

大級のカルデラ盆地の中に位置し、広大な草地を活用した粗飼料自給率100%、飼養頭数約220頭(うち、搾乳牛125頭)をフリーバーンで管理し、6頭ダブルのパラレルパーラーで搾乳を行っています。小久保さんは、この牧場の草地面積や現有施設を鑑み、『自給飼料100%が魅力でした。飼料高騰下でもなんとかやっていけるのでは。平成12年に森本さんが新たに整備してくれた牛舎やパーラー、TMRミキサーのある飼料庫などの動線もよく、この先自分が思い描いている搾乳ロボットの導入にも対応できそうです。』と、継承の理由を語っていました。継承者の森本勝義氏は『全酪連の熊本駐在の頃からお互いを良く知っていたし、人当たりもいい。



▲ 経営を委譲した森本勝義さん

小久保君が選んでくれたことは、夫婦そろって嬉しかったですね。』と目を細めていました。

今回の継承は、法人である(有)もりもと牧場のオーナーである森本夫妻が保有するすべての株式を、小久保さんが数年かけて取得するという手法で経営を引き継ぐこととし、株式譲渡については、全酪アカデミーの監事である森税理士(株)アグリビジネスソリューションズ)にご指導いただ



▲ 記念プレートを贈呈する北池理事長(左)と小久保さん

きながら協議を重ね、今年の6月には株式譲渡契約書を締結しています。経営移譲にかかる事務手続きを完了し、登記上、代表者が小久保さんとなった9月1日には、当牧場において全酪アカデミーの北池理事長(全酪連代表理事専務)から記念のプレートが贈呈されました。その後、場所を移し、移譲者である森本夫妻、研修先であった宮本夫妻、全酪アカデミー関係者に加え、就農までの過程で尽力していただいた全酪アカデミーの賛助会員である熊本県



▲ (有)もりもと牧場

酪連や、小久保さんが所属する大阿蘇酪農協の役職員を交え、激励会が行われました。激励会の場で北池理事長は、設立当初から賛助会員になっていただいた熊本県酪連、研修当初から組合行事に小久保さんを連れ出し地元の方々に紹介していただいた大阿蘇酪農協、研修先だった宮本夫妻、移譲者の森本夫妻に感謝を伝え、『小久保さんの酪農家になりたいという気持ちは当初から十分あったが、サポートしていただける地元組織が

あつてこそ。新たな酪農家のために、今後も地域とともに全酪アカデミー、全酪連も強力にサポートしていきたい』とあいさつしました。小久保さんは、『歴史あるもりもと牧場を引き継ぐこととしました。森本さん、宮本さん、地域の組合、アカデミーの方々、いろいろな方のご理解、ご協力があつて今日があります。そのようなつながりを大切にしていきたい。』と述べました。

全酪アカデミーは、酪農就農を志す方々を研修生として最長3年間雇用します。研修生は給与を受けながら、就農支援プログラム(教育カリキュラム)に基づき全酪連関連牧場や賛助会員組合員の契約農場(酪農家)での実践研修や、多岐にわたる分野の座学研修を受けることができます。北海道から沖縄まで全国38の賛助会員から提供される就農候補地の中から研修生が希望する地域とのマッチングをし、事業計画策定、事業継承など賛助会員と連携

し多面的にサポートします。現在、3組6名が研修生として雇用されており、11月には2組目の就農が予定されています。小久保さんが継承した(有)もりもと牧場の今後に期待するとともに、全酪アカデミーから巣立つ多くの新規酪農家を本会もサポートしていきます。

●令和6年度研修生募集

(一社)全酪アカデミーでは、令和6年度の研修生を募集しています。

牧場で働きながら知識や技術を身に付けます。「入学金」や「授業料」などの学費は一切かかりません。現在会社にお勤めの方が退職後も安心して酪農就農を準備できる体制を整えています。

▶ 給与 月給 210,000 円～ (夫婦での採用の場合、月給 420,000 円～)

▶ 休日 4 週 4 休 (農場研修は月 23 日程度)

▶ 借上住宅

▶ 通勤手当

▶ 有給休暇

▶ 社会保険

詳しくは、ホームページでご確認ください。

→ <https://z-academy.org/>

YouTube で動画を公開しています。

→ https://youtu.be/Vmy_KocOF-g



一般社団法人 Zenraku Academy

全酪アカデミー



見て歩
紀No.
364

浜田牧場

神奈川県平塚市

品質の良い酪農と地域に
根差した6次産業

▲ 浜田昌伯さん

地域の紹介

浜田牧場がある神奈川県平塚市は神奈川県の湘南地域中部に位置し、面積67・82km²、人口約25万9千人の施工時特例市です。

農業が盛んな平野が北端部まで広がり、南部は都心にもほど近く東京・横浜のベッタタウンともなる市街地が広がっています。

神奈川県下では横浜市・川崎市・横須賀市に次ぐ4番目の商工業都市として発展した歴史があり、現在でも多くの工業・商業施設があり平塚市の発展を支えています。

農業においては、相模川と金目川の下流域に発達した平野とそれを囲む丘陵地で、神奈川県下1位の生産量を誇る稲作や酪農、養豚を中心とした畜産業と東京・横浜などの大消費地の近郊という地の利を生かした形の野菜生産が営ま

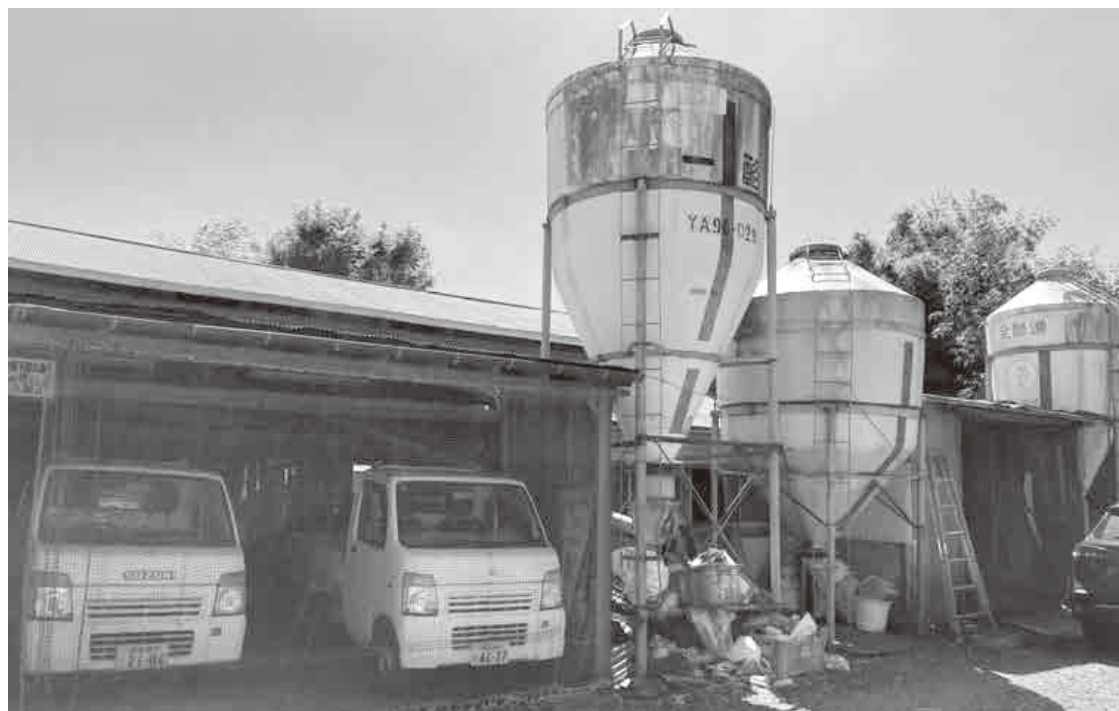
牧場の概要

この度訪問させていただいた浜田牧場は、かながわ酪農協同組合（代表理事組合長…井上剛）に所属し、神奈川県平塚市の南西部に位置する酪農と農業が盛んな地域の中心にあります。

浜田牧場は牧場主である昌伯さん、昌伯さんの奥様、昌伯さんの息子の浩司さんの3人で牛舎管理をしています。3人で親牛の飼養管理、圃場の管理を行い、浩司さんが堆肥管理を専門で行っています。

現在の飼養頭数は経産牛33頭、育成牛14頭、預託牛6頭おり、搾乳牛33頭で日乳量1・5tほどになっています。飼料給与体系は自給飼料のデントコーンサイレージ・稲わらと、購入粗飼料のアルファルファ・





オーツヘイ・スーダンヘイを細断した粗飼料部分、自動給餌機で購入配合飼料と単味を独自に配合した配合飼料を給与する体系となっています。

沿革

当牧場はもととお父さんの時代から酪農を始め、牧場主である昌伯さんは2代目になります。始めはバー

ンクリーナーが無い状態で作業していたため、昭和48年にバーンクリーナーを導入しました。作業の効率化を図るために平成8年に自動給餌機を導入し、幾度となく改築を繰り返して現在の牛舎になりました。

令和3年に横浜市などで増えてきたジェラート直売所を参考に牛舎近くの土地に地元産の農産物も直売できるジェラートショップを立ち上げ、浩司さんの奥様を店長として「Gelateria Vega」を開店しました。



自給飼料の利用

浜田牧場はコーンサイレージ・稲わらの圃場を約5ha持つっており、他にイタリアン・ソルゴーも約1・5ha分栽培して、年間通して給与出来るだけの自給飼料を生産しています。また、冬場には追加で飼料用カブを栽培し、1月から3月頃にかけて給与することで飼料コストの削減に努めています。

作業の効率化と自給飼料による

コストの削減により、この難局に立ち向かっています。

地域農産物の消費拡大と6次産業の挑戦

地域のお祭りや地元の企業が参加するイベントなどで酪農家は売るものが堆肥しか無く、「どうせ酪農家として生乳を絞っているなら何か他のことに繋がることをやりたい」という思いと、他の地域で酪農家が販売しているアイス店を参

考に酪農家としてのアピールにもなるということから6次産業化として地元でのジェラートの製造販売事業を開始しました。

浜田牧場の堆肥を使用してきている地元の野菜農家さんへの感謝を込めて、直売所に仕入れている

野菜や果物はもちろん、ジェラートの種類はほとんどが地元の農産物を使用した『地産地消』をこだわりとして販売しており、酪農・農業の双方の発展に繋がるように日々努めています。また、営業時間に間に合わなかったお客さんにも味わっ

てもらえるように令和4年に店舗前にジェラート販売専門の自動販売機を導入しました。

コロナ禍でのオープンでしたが多くのテレビや新聞雑誌などの取材を受け、事業開始当初の想像を超える反響をいただいたことに感謝

し、今後さらに酪農家を知ってもらい地元の農産物に触れあってもらうためにキッチンカーを導入し出張販売を実施していくことを目標にしています。

最後に

ご多忙中、取材を受け入れていただきありがとうございました。この厳しい情勢下の中ですが、地域の発展のためこだわりをもって各事業に取り組み、必要などころへ労力をかける柔軟な対応にチャレンジし続ける牧場でした。

取材にあたり、かながわ酪農協の皆様にもご協力をいただき、ありがとうございました。

浜田牧場の益々のご発展と神奈川県酪農が隆盛することを願っております。



Gelateria Vega

Instagram



HAMADA_DAIRY_FARM

全酪
アカデミー発

全酪アカデミー研修生 ラジオで抱負を語る

現在、日曜朝 7 時 30 分から TBS ラジオにて放送されている「石川實 DAIRY LIFE」に、(一社)全酪アカデミーで新規就農を目指して研修 1 年目の前田達也さんとヴィオリスカさん夫妻が出演し、その意込みを語りました。

当番組のパーソナリティーの石川氏は、今夏札幌にて行われた全国酪青女による「酪友フォーラム 2023」のパネルディスカッションにおいてコーディネーターを務めていただきました。懇親会まで参加いただいた石川さんは、そこで酪農就農を志す担い手を育成し就農に結び付けることを目的としている全酪アカデミーの取り組みを知り、興味を持たれ、自らの番組で取り上げていただくこととなりました。

収録で、研修生の前田達也さんは、「4 月に入職して約半年。その間、酪農は搾乳、エサやりだけでなく、繁殖管理、堆肥処理、自給粗飼料のための圃場管理など多くの作業があることを知り、改めて大変さを知りましたが、日々新鮮で楽しいです。」と話し、奥

さんのヴィオリスカさんは「牛、一頭一頭の個性が見えてきてますます可愛さを感じます」と今の心境を語りました。また、「全酪アカデミーは、就農候補地の情報を全国各地の賛助会員から収集し、その中から私達の希望に近いところを提案してくれています。私たち自らが探す必要はなく、その分、研修に集中できます。その点が非常に安心であり、ありがたいです。」と、2 年目の研修地に向けて既に準備を始めています。

番組には、全酪アカデミーの坂本事務局長も出演し、「毎年、数百戸の酪農家が離農しています。それに対し、新規就農は全国でおおよそ 30 戸です。酪農家になりたい！という非農家の若者が、実際に酪農家になれる仕組みを確立したい。全国の全酪アカデミー賛助会員、特別会員そして酪農業界が一体となり、全国に酪農家を誕生させる事業に発展させていきたい。」と抱負を熱く語りました。

なお、この模様は、10 月 29 日から 2 週にわたり放送される予定です。ぜひお聞きください。(I.M)

石川實 DAIRY LIFE



【番組 HP より】

この番組は酪農家の想いをラジオパーソナリティーの石川實が形にする番組です。暮らしに欠かせない食べ物やエネルギーは、いったいどこから来ているのだろう…どんな人が、どんな想いで作っているのだろう…東京を中心にした都市で生活している私たちがつい忘れが

→ <https://www.tbsradio.jp/milk/>



ちな、大事なこと。その中でも、日常の生活と牛乳・乳製品をテーマに石川實の視点で世界を伝えるのがこの番組です。都市に生活していても自然の恵みと生産者の想いを身近に感じる暮らしを“選択”してステキな物語に溢れた暮らしをしよう…そんな提案を番組を通じて伝えていきたいと思っています。



▲ (前列右から) 研修生の前田ヴィオリスカさん、達也さん夫妻、(後列左から) 石川實氏、坂本事務局長、板倉事務局長

仙 台
支所発自由民主党東北酪政会・日本酪農政治連盟東北ブロック協議会
現地視察・意見交換会を開催！

令和5年9月11日(月)自由民主党東北酪政会と日本酪農政治連盟東北ブロック協議会は、山形県南陽市において現地視察・意見交換会を開催しました。自由民主党東北酪政会からは、会長 鈴木俊一財務大臣（衆議院岩手県第2区）、事務局長 鈴木憲和衆議院議員（山形県第2区）、事務局次長 藤原崇衆議院議員（岩手県第3区）の3名が出席されました。また、日本酪農政治連盟から委員長 佐藤哲氏、幹事長 坂本保氏、事務局長 吉村薫氏が出席されました。日本酪農政治連盟東北ブロック協議会からは、柴田輝男会長（秋田県酪農連盟会長）をはじめ、東北各県組織の役員を中心に23名の出席がありました。

当日は午後、東北酪政会の先生方が南陽市赤湯駅に到着後、現地視察として株式会社山口ファーム（代表：山口長一山形県酪農協代表理事組合長）へ直行しました。山口代表の説明を聞きながら、先生方は酪農現場をつぶさに視察されました。

そして一行は東北の伊勢と呼ばれる「熊野大社」を参拝した後、山形県酪農業協同組合本所へ移動、会議室において意見交換会が開催されました。飲用向け

乳価は2度値上げされたが酪農経営はまだまだ厳しい現状にあることは、共通認識とも言える中で、東北は、水田フル活用のことも含めて粗飼料の自給率をもっと引き上げられるという観点から、取り組み方や補助のあり方について意見が多く出ていました。また、酪農家戸数が減少する中での機械の共同購入に関する補助についても、意見が出ました。

夕刻からは、赤湯温泉の「丹泉ホテル」において懇親会が開催されました。懇親会の席上もざっくばらんな感じで、とても話が盛り上がっていました。とりわけ東北酪政会会長の鈴木財務大臣の周りには、多くの人が囲む形で会話がが続いている様子が見えられました。懇親会においても積極的に意見交換が行われ、分刻みとも言えるスケジュールの中で、双方とも貴重な現地視察・意見交換会になったと思われます。

日本酪農政治連盟東北ブロック協議会としては、「令和5年度役員研修会」を兼ねての開催でしたが、翌12日も丹泉ホテルにおいて日本酪農政治連盟本部との意見交換会が開催され、2日間を通して大変有意義な会となりました。（I.Y）



▲ 自由民主党東北酪政会との意見交換会の様子



▲ 挨拶をする鈴木俊一財務大臣、鈴木憲和衆議院議員（右）、藤原崇衆議院議員（左）



▲ (株)山口ファームでの現地視察の様子



▲ 現地視察(株)山口ファームでの記念撮影

福岡
支所発

沖縄県酪協 赤チームが優勝!! 第44回九州・沖縄地区酪農団体職員親善スポーツ大会

9月2日(土)～9月3日(日)の2日間、鹿児島県鹿児島市において九州・沖縄地区酪農団体協議会（中村隆馬会長）主催の第44回九州・沖縄地区酪農団体職員親善スポーツ大会が開催されました。

この大会は「九州・沖縄地区の酪農団体職員の資質向上と親善ならびに団結を図る」ことを目的として毎年開催されていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止が続いていました。今年は新型コロナウイルス規制緩和を受け、実に4年ぶりの開催となります。

大会前夜（9月2日）、鹿児島サンロイヤルホテル（鹿児島市）で行われた恒例の懇親会では、来賓として開催地鹿児島県農政部畜産課より、畜産国際経済連携対策監の西中間様、全酪連から北池代表理事専務を迎え、盛大に開催されました。

九州・沖縄地区酪農団体協議会の中村会長の主催者挨拶、来賓挨拶に続き、地元鹿児島県酪農業協同組合の有村代表理事組合長による牛乳での乾杯ご発声により、懇親会は幕を開けました。139名の酪農関係団体職員が互いに交流を深め、笑顔あふれる楽しいひと時となりました。アトラクションでは、各団体別カラオケ大会で歌やダンスが披露され、会場は大いに盛り

り上がりました。また、各団体とも開催が延期される間に入会・異動してきた職員も多く、顔を合わせる事により職員間や団体間の友好を育み、今後のスムーズな業務遂行にプラスになる大会となりました。

大会当日(9月3日)は、場所をサンライトゾーン（鹿児島市）に移し、スポーツ大会開催種目としては初となるボウリング大会が開催されました。各チームが各団体の名誉をかけて激闘を繰り広げ、会場は選手の一喜一憂する姿や各チーム応援団の歓声・拍手で熱気に包まれました。結果は、チーム平均スコア131.5の沖縄県酪協赤チームが優勝しました。

表彰式では沖縄県酪協赤チームに大会会長賞・全酪連会長賞が、準優勝の沖縄県酪協白チームに大会会長賞・中央酪農会議会長賞が、第3位の佐賀県農業協同組合赤チームに大会会長賞・九州酪農政治連盟協議会会長賞が、第4位の熊本県酪農業協同組合連合会白チームと第5位の全酪飼料(株)鹿児島工場に大会会長賞がそれぞれ授与されました。

最後に九州酪農政治連盟協議会の宮本会長が閉会の辞を述べ、来年の開催県、佐賀県での再会を約束し第44回大会の幕を閉じました。（A.M）

大会結果

優勝	沖縄県酪農農業協同組合	赤チーム
準優勝	沖縄県酪農農業協同組合	白チーム
3位	佐賀県農業協同組合	赤チーム
4位	熊本県酪農農業協同組合連合会	白チーム
5位	全酪飼料(株)鹿児島工場	白チーム



▲ 沖縄勢がワンツーフィニッシュ！

▼ 中村会長（九沖団体協）の主催者挨拶



▼ 北池代表理事専務（全酪連）の来賓挨拶



▲ 歓迎挨拶・乾杯音頭 有村組合長（鹿児島県酪協）



▲ 大盛り上がりの懇親会・カラオケ大会

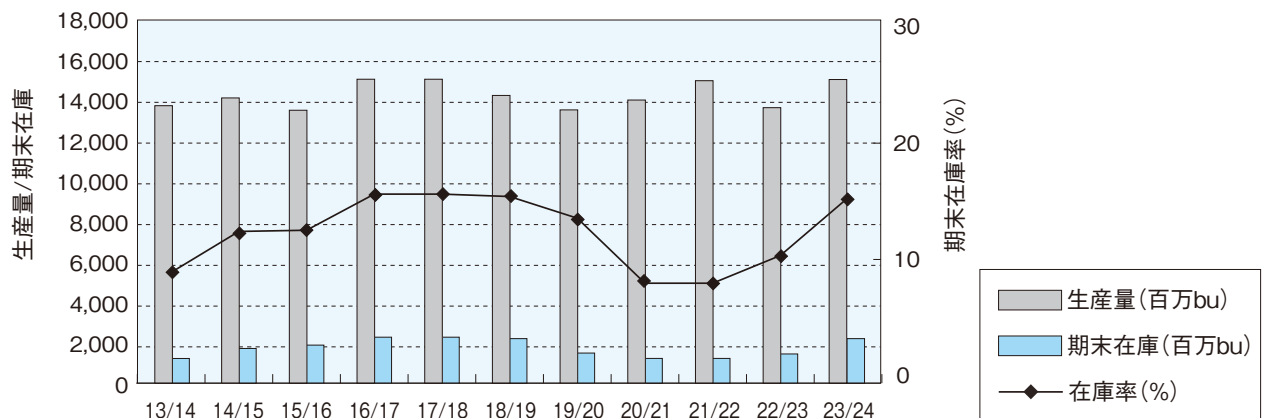


▲ 笑顔と歓声が溢れるボウリング大会

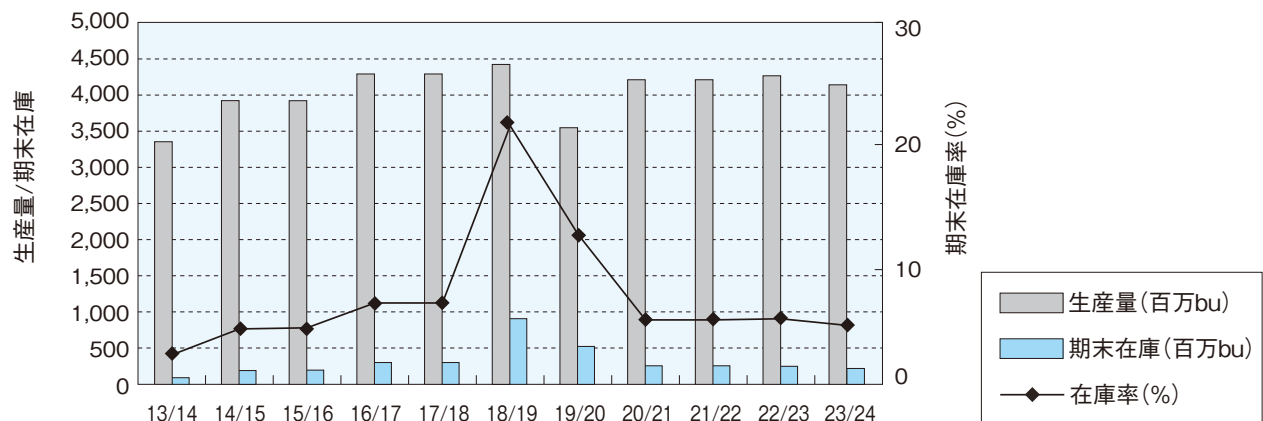


9月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想		22/23年産	23/24年産
	作付面積(百万エーカー)	88.6	94.9
	単 収(ブッシェル/エーカー)	173.3	173.8
	生 産 量(ブッシェル)	137億3,000万	151億3,400万
	需 要 量(ブッシェル)	136億9,500万	143億9,000万
	期末在庫(ブッシェル)	14億5,200万	22億2,100万
	在 庫 率	10.60%	15.43%
トウモロコシ 相場動向	米国23/24年度産は高温乾燥に伴う作柄悪化により単収は減少する見込みにあるものの、収穫面積の増加により生産量は増加予測となった。ブラジル産も豊作で世界の供給量は潤沢となる見方から、シカゴ定期は軟調に推移している。ブラジル産は豊作の大豆と豊作のトウモロコシ輸出が重なり輸出キャパを超え滞船が発生している。今後はブラジル産を買付けしている中国の需要が米国産に流れてくると、引き続きロシア・ウクライナ情勢には注視が必要となる。		
大豆粕相場動向	輸入大豆粕については作柄悪化懸念によりシカゴ定期が高止まりしていることや、為替円安が進行しているため、強含みで推移している。国産については採算的に菜種が有利なため大豆から菜種搾油にシフトしており、国産価格は高止まりに推移している。		
糟糖類	【一般フスマ】 7-9月期の挽砕量予想は前年比100%の見通し。10-12月期も前年比100%程度と見込まれており引き続き供給余力はない様子。		
	【グルテンフィード】 主製品出荷量が低調な一方で、高い配合率が持続されているため需要は引き続き強く、相場は強含みで推移している。		
海上運賃	中国経済の低迷により軟調に推移していたフレート市況は、パナマ運河の水位低下に伴う通航制限による滞船や、サウジアラビアの原油減産に伴う原油価格上昇の長期化懸念等から、反転して上昇基調となっている。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



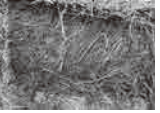
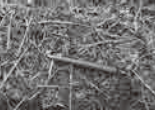
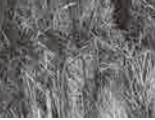
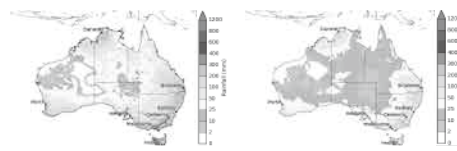
米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和5年9月

北米コンテナ船情勢	米国西海岸における北米西岸港湾労組（ILWU）と雇用主団体（PMA）の労使交渉は暫定合意となっていました。現地8月31日に北米西岸港湾労組側の投票において75%以上の賛成があったため正式合意となりました。カナダ西岸港湾労組（ILWU CANADA）と雇用主団体（BCMEA）の労使交渉については7月30日に暫定合意に至っています。バンクーバー港は通常稼働となっていますが、ストライキの影響は大きく、現在も港湾の混雑が続いておりスケジュールの遅延が発生しています。コンテナ船の状況については秋口以降、例年、農作物の出荷や米国クリスマス商戦、冬季の荒天の影響を受け船腹の逼迫やスケジュール遅延が起きやすいため、今後の動向には注視が必要です。
ビートパルプ	【米国産】 23-24年産ビートは生産の遅れがあった地域を除き、8月中旬より収穫と製糖作業が各地で開始されています。8月中旬までは適度な降雨もあり生育には理想的な天候だったものの8月下旬より暑く乾燥した日が続いたため、生産量は減少する予想となっています。産地相場については、新穀の生産を待っている段階であり、輸出向けや米国向けの需要動向に変化はなく、依然として産地相場を見極める状況が続いています。
アルファルファ	【ワシントン州】 主産地であるコロンビアベースンの南部では3番刈の収穫作業は終了、中部から北部でも収穫作業は終盤戦を迎えています。23年産は1番刈の収穫以降、断続的な降雨もなく天候に恵まれたこともあり例年より早い収穫進捗が続いています。そのため2番刈については過乾燥なものもありますが、色目の鮮やかな品質が多く、低級品の発生は少なくなっています。3番刈についてはカナダで山火事が再び発生し、煙がコロンビアベースンに流入したことで乾燥に時間が掛かり、一部の地域では降雨被害もあったことから産地全体で上級品の発生は限定的となっています。日本向けの市場は依然として産地相場を見極める動きが続いていますが、中東向けで高成分を買付する動きがあることや1番刈の上級品を確保出来なかった輸出業者が積極的に買付を始めたこともあり今後の動向には注意が必要です。 コロンビアベースン ▶ 2番刈り アルファルファ 上級品 (8月中旬撮影) 
	【オレゴン州】 主産地であるオレゴン州クラマスフォールズでは2番刈の収穫作業が終了しています。8月下旬から3番刈の早い圃場で収穫作業を開始していますが、降雨があったため雨あたり品が発生する見込みです。今後9月に入り収穫作業は本格化しますが、降雨の影響と収穫進捗が遅れていることから3番刈で生産を終了する圃場も多くなる予定です。2番刈の品質については、1番刈の収穫時期が例年より遅くなったことから1番刈で刈り取れなかった茎が残った圃場もあり、例年よりも色目の鮮やかな品質は限定的となっています。同州クリスマスバレーにおいても2番刈の収穫作業は終了しています。一部の圃場では降雨被害が出ているものの、高成分の良品も発生しています。   ▲ 23年産オレゴン産2番刈アルファルファ 8月下旬撮影
	【カリフォルニア州】 カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは現在6番刈の収穫が行われています。産地では4番刈以降、成分値が低く茎が細い過乾燥気味なサマーヘイ中心の発生となっています。インペリアルバレー灌漑局の発表によると、8月15日時点でのアルファルファの作付面積は136,028エーカー（前年同期は123,366エーカー）と前年同期比110%と増加しています。 【ネバダ州】 ネバダ州北部ウィナマッカでは現在2番刈の収穫作業が終了し、3番刈の収穫作業が9月上旬より始まる見込みです。同州は1番刈では降雨被害を受け、2番刈ではコロギの異常発生によりアルファルファに被害が出たことから輸出向けには適さない品質が多く発生しています。
チモシー	【米国産】 主産地であるワシントン州コロンビアベースン南部では2番刈の収穫が終了していますが、中部および北部では収穫作業中です。23年産の1番刈は収穫期の不安定な天候の影響で上級品の発生は限定的となっています。23年産の価格が下落したことで不満を抱える生産農家も多く、昨年と比べて半数近くの生産農家が2番刈を行わず相場の良い豆類やとうもろこしといった換金性の優れる作物に転作を進めています。
	【カナダ産】 主産地であるアルバータ州南部レスブリッジ地区では、1番刈の収穫が終了し、2番刈の収穫が開始されています。現時点で相場は形成されていませんが、国内の干ばつの影響でカナダ国内の酪農家からの需要も多く、価格は堅調に推移する見込みです。同州中部クレモナ地区では乾燥した気候が続いた影響により生育が不安定となり収穫された品質は中低級品の発生となり上級品の発生は限定的となっています。
スーダングラス	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、1番刈の収穫が終了し9月下旬には2番刈の生産を終える見込みです。同州では8月下旬に発生したハリケーン「ヒラリー」の影響で、保管中のスタックや収穫中のスーダングラスに降雨被害が発生しました。降雨被害の全貌は見えていませんが、23年産の作付面積減少に加え、降雨被害により高温の夏時期や2番刈に多く発生する茎が太い低級品は限定的となる見通しです。日本の需要に対しては輸出業者も旧穀在庫を抱えているため供給力に懸念はありませんが、ハリケーン被害による産地相場の上昇については注視が必要です。灌漑局の発表によると、8月15日時点での作付面積は16,022エーカー（前年同期は34,109エーカー）、前年同期比47%となっています。   ▲ ハリケーン「ヒラリー」による降雨被害の状況 (左)浸水したヤード (右)降雨被害スタック 8月下旬撮影
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、3番刈の収穫が終了し、一部の圃場では4番刈の収穫作業が開始されています。収穫された3番刈の品質は2番刈同様に色目が綺麗な良品が多く発生しています。未収穫の3番刈についてはハリケーン「ヒラリー」の降雨被害もあり、適期に刈取りを行うことができず、刈遅れの品質が多く発生する見込みです。例年クレイングラスは5番刈まで生産されますが、23年産は価格軟化の影響を受け4番刈で生産を終了する圃場も多くなる見通しとなっています。インペリアルバレー灌漑局の発表によると、8月15日時点でのクレイングラスの作付面積は21,996エーカー（前年同期19,653エーカー）となっており、前年同期比112%と増加しています。
バミューダ	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、3番刈の終盤を迎えています。産地では米国内の馬糧向けや韓国向けに堅調な引き合いがあることから荷動きは好調で、収穫は5番刈まで行われる見通しとなっています。インペリアルバレー灌漑局の発表によると、8月15日時点の作付面積は66,693エーカー（前年同期63,968エーカー）と前年同期比104%の作付面積となっています。
ストロー類	主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは、23年産のストローの生産が終了しています。例年に比べ降雨が少なく土壌中の水分が不足した影響で生産量は減少しています。
オーツヘイ	【豪州産】 今後の天候次第では9月中旬頃からスケジュールの早い地域で収穫が開始される見通しですが、8月も豪州全域で平年より乾燥した西豪州では例年の4割程度しか降雨がなく、高温かつ乾燥した気候で生育不良となっているため生産量の減少が懸念されています。下図は豪州の気象庁による平年9月から11月の降水量と23年9月から11月の降水量予測ですが、3ヶ月を通して10mmから50mmの降水量予測の地域も多く、平年を下回る降水量になることが予想されています。  出典: The Australian Bureau of Meteorologyより (左) 9月-11月までの降水量 (右) 23年9月-11月までの降水量予測



日本酪農
政治連盟

酪政連活動報告

令和5年7月～9月

7/31
↓
8/1

北海道酪農協会が
農水省牛乳乳製品課、飼料課等との
意見交換会を実施する。
(於 農林水産省)
また、衆議院・参議院議員会館にて
要請活動を実施。

8/24

自由民主党総合農林政策調査会、農林部会、
農政推進協議会合同会議において、
佐藤委員長は令和6年度 酪農政策・予算
確保にかかる要請を行う。



▲ 佐藤委員長要請

8/29

正副委員長会議、
農林水産省牛乳乳製品課との意見交換会
(於 酪農会館、全酪連役員会議室)

三役会議・中央委員会 (於・自由民主党本部)
令和6年度 酪農政策・予算確保に関する要請内容について協議

自由民主党酪政会総会が開催され、49 名出席。
日本酪農政治連盟からは三役・顧問・各県委員 72 名出席。
日本酪農政治連盟・佐藤委員長は、依然として厳しい各地の酪農情勢を伝えるとともに、
令和6年度酪農関連対策・予算確保にかかる要請を行った。

9/5



▲ 酪政会佐藤委員長要請



▲ 自民党酪政会

日本酪農政治連盟・日本酪農政治連盟東北ブロック協議会意見交換会 (於・山形県南陽市)
日本酪農政治連盟より佐藤委員長・坂本幹事長出席。
東北各県の代表者と意見交換を行う。

9/12



▲ 東北ブロックとの意見交換会



乳牛産地情報

令和5年10月1日現在

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	20~30	→	札幌管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で90.2%、累計で95.0%、苫小牧管内月計で89.7%、累計で92.1%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月下旬~1月中旬の分娩になりますが、資源は豊富にあるため、相場については前月並みで推移するものと見込まれます。当地域において、腹別による資源・価格差はあまりありません。高能力牛の導入が可能となっております。ご希望がございましたら、条件等をお問い合わせ下さい。
	初妊牛	43~53	→	
	経産牛	35~45	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	20~25	→	根釧管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で94.8%、累計で95.1%、中標津管内月計で94.3%、累計で95.2%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月分娩が中心となります。猛暑が続いた府県での更新需要が考えられますが、管内の乳牛市場への出品頭数は多く、庭先購買価格は横這いで推移するものと思われま。資源状況はF1腹、雌雄選別腹ともに十分に確保され、また和牛授精卵移植腹も出回りはあるものと思われま。育成牛、経産牛の動きも、初妊牛同様となるものと見込まれます。
	初妊牛	40~48	→	
	経産牛	32~42	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	25~35	→	帯広管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で93.0%、累計で94.3%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月下旬~1月中旬分娩が中心となります。資源については十分に確保できる状況であることから、相場についても横這いで推移するものと見込まれます。腹内容によつての価格差があまり無くなっており、和牛授精卵移植腹につきましても、導入しやすい価格帯となっております。また経産牛への需要が高まってきており、購買後に即戦力とできるような分娩時期の牛や若い経産牛においては、初妊牛と遜色ない価格帯で取引されています。
	初妊牛	45~55	→	
	経産牛	40~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	18~28	→	道北管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で92.8%、累計で95.1%、北見管内月計で93.6%、累計で94.2%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月下旬~1月中旬の分娩となっております、冬分娩が中心での出回りとなります。12月より道内加工向け乳価が上がることににより需要は高くなると考えられますが、情勢も考え価格については横這いで推移するものと予想されます。資源状況につきましてはF1腹、雌雄選別腹共に豊富にある状態となっております。経産牛につきましては、乳価値上げにともない即戦力としての需要が高くなると考え、やや強含みで推移すると見込まれます。
	初妊牛	43~53	→	
	経産牛	30~40	↗	
道内総括	育成牛(10-12月令)	25~35	→	道内の9月中旬までの生乳生産量前年比は93.5%、累計で94.8%の実績となっております。道内ではデントコーンの収穫も例年より1週間程度早くスタートしたため、ほぼ終了しております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月~1月分娩中心となりますが、大きな相場の動きは無く前月並みに推移するものと思われま。公共牧場からの下牧も始まり資源は豊富になることが見込まれていますが、猛暑の影響による搾乳牛の更新なども見込まれるため相場に注視する必要があります。また、夏授精が遅れることもあり春分娩への人気は更に高まる事も予想されるため、早めの導入計画をお勧め致します。弊社としましては庭先購買中心にご要望に合った搾乳用素牛を供給して参りますのでご注文宜しくお願致します。
	初妊牛	45~55	→	
	経産牛	35~45	→	

今月の表紙



今月の表紙は「第13回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「マニアスプレッター書道 MILK」(石川県西出穂氏 撮影)です。

編集後記

- 残暑もだいぶ和らぎ、過ごしやすい季節となりましたが、季節外れのインフルエンザが流行しています。こまめな手洗い、十分な睡眠とバランスのよい食事で免疫力を高め、予防に心掛けましょう。
- 秋こそ何かをはじめるのにピッタリの季節！
○○の秋…皆様はなにを楽しめますか？
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、
以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和5年10月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 10月号 No.697

● 編集・発行人 岡田征雄

● 発行 全国酪農業協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館

TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



のんびり牛

下増田小学校 4年（東北） 阿部煌己

今月の入賞作品は…

下増田小学校 4年（東北）の阿部煌己さんの作品です。

耳をそばだてて舌をぺろりと出した牛さんの一瞬の表情がうまく表現できましたね。左耳は画面に収まらなかったことで、かえって迫力が伝わってきて良いです。牛さんのお顔は黒の濃淡で描かれ、生き生きとした様子が伝わってきます。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第49回らくのうこどもギャラリー」で全国138点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議